

IPM実践指標(露地オクラ)

	管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	病害虫雑草の発生しにくい環境整備	栽培圃場周辺での雑草管理	圃場周辺の雑草を除去し、病害虫雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点		
		土壌pHの矯正	土壌pHを測定し、pHが低い場合には石灰質資材を施用し、土壌の酸度を6.5以上に矯正する。	1点		
		施肥	草勢をよく観察しながら適正に施肥する。	1点		
		土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に罹りにくい強健な作物栽培に心がける。	1点		
		排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備する等の改善を行う。	1点		
		摘葉・摘果	適切な摘葉等を行い、通風採光を図る。整枝、摘葉、摘果したものは、圃場から持ち出す。特に、病害虫の発生したものは確実にを行う。	1点		
		トンネル管理	適正な換気に努める。徐々に外気に馴化させていく。	1点		
		判断	防除要否・タイミングの判断	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点
気象情報の把握	週間天気予報等の気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除を心がける。			1点		
トラップの設置	フェロモントラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、防除時期の判断をする。			2点		
病害虫の観察	近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。			1点		
土着天敵の確認	病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。			1点		
防除	耕種的防除	輪作	田畑輪作をおこなう。	1点		
		作型	極端な早播きを避ける。	1点		
		雑草管理	マルチをして雑草を抑制する。	1点		
		収穫後残渣の処理	収穫後残渣は病害虫の発生源となるため、早めに処分する。	1点		
	物理的防除	防虫ネットの利用	鳥の食害や害虫の飛び込みを防ぐため、防虫ネットで被覆する。	1点		
		マルチ被覆	雑草の抑制や、土の跳ねあがりを防ぐため、マルチをする。	1点		
	生物的防除	生物農薬の利用	微生物農薬・天敵農薬の使用。	2点		
		インセクタリアープラントの利用	周辺にソルゴー等を植えて、土着天敵を誘引・定着させる。	1点		
	化学的防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点		
		薬剤の選択		薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。	1点	
			天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1点		
その他			化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、気門封鎖剤等の物理的防除効果のある剤を組み入れる。	1点		
		飛散防止	農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、他の作物などに飛散しないように、適切な飛散防止策を講じる。	1点		
		作業日誌	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の名称、使用時期、使用量、散布方法等栽培管理状況を記録する。	1点		
				合計点数		
				対象IPM計		
				評価結果		